

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれ)

事業所番号	0672300381		
法人名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームかほく		
所在地	〒999-3511 山形県西村山郡河北町谷地字砂田207-1		
自己評価作成日	令和 2年 10月 1日	開設年月日	平成 16年 7月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは地域の中で、その人らしく安心して、楽しく笑顔で生活できる、温かみのあるホームを目指します」というグループホームかほくの理念に基づき、よつば棟では「笑顔たやさず、和気あいあいとみんなで安らぐよつば」を合言葉に入居者様一人ひとりがその人らしく生活していけるように心がけ、日々の生活に張り生きがいをもってもらえる様に日々の業務を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2年 11月 12日	評価結果決定日	令和 2年 12月 17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「楽しく笑顔で生活できる 温かみのあるホームを目指します」を掲げ、理解して実践し、家族からは利用者が「以前より笑顔が多く見られるようになった」との声も聞かれ、職員の意欲向上に繋がっています。今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策で地域との交流が困難になっていますが、町の健康福祉フェスティバルに利用者と職員が協力して製作した作品を出品するなどできることを見つけ事業所への理解を深めてもらえるよう努めています。そのような状況の中でも、ホールでは賑やかな歌声が響き、手足を伸ばして体操に精を出し、一人ひとりがやりたい事できる事を見つけ職員に見守られながら、自分らしい暮らしを送っている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念に基づき、事業所としての理念とユニットごとの心得を作成し、毎日出勤時には確認し、理念に沿ったケアが出来るように心掛けている。	理念を念頭にユニット毎の心得を定め、実践に向けて職員一人ひとりがより具体的な個人目標を設定し、毎月振り返り確認している。自身や家族が利用者の立場になった時にどう思うのか考えながら、日々笑顔で寄り添っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域のロータリー花壇の清掃に参加していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防の為、実施することができていない。地域の方との交流もほとんど出来ていない。	毎年楽しみにしていた地域行事や花壇清掃が中止となり、交流できない状況になっている。その中でも運営推進会議に地区役員の参加を得て区長には避難訓練時の非常連絡先となってもらうなど、今まで培ってきた関係を維持できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町で開催している健康福祉フェスティバルなどへの事業所紹介などを通して情報提供をしたり、介護相談なども随時受け付け、認知症の方への理解や支援方法について情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議の開催が第1、2回目は資料配布によるものとなり、9月に第3回の運営推進会議を開催したところ。頂いた情報や評価を受けとめ、今後のサービス向上に活かしていきたいと思っている。	今年度は新型コロナ感染防止の対策として、事業内容や生活状況報告などの資料を手渡しで配布した回は対面して意見を聞いている。メンバーからは町内情報や質問などが寄せられ、気づきを得て取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染症の予防のための情報やマスクや予防衣、グローブや消毒用品などの在庫状況などメールや電話での情報提供を行いながら、サービス提供に支障がないように協力して頂いている。また、町の介護保険サービス調整会議構成員になっており、様々な情報を共有している。	町担当者や地域包括支援センターからは運営推進会議参加時に様子を見てもらい、現状や取り組みを理解してもらっている。新型コロナ対策では様々な情報提供や予防用品の在庫確認・支給などの支援があり、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について事業所内で研修を行い、身体拘束の具体的な行為や弊害について理解を深めるように努めている。また、身体拘束廃止委員会を設け職員会議の際に状況を確認し拘束のないケアに努めている。	身体拘束廃止委員会を中心に研修を行い全員がチェックリストで行動を確認し、抑圧のない生活を実践している。全ベッドに眠りスキャンを導入して離床をいち早く感知し、不意な立ち上がりなどには和床にしてリスク回避を図り、全職員が対応を統一し利用者が戸惑わないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を行い、虐待防止に関する理解を深めるようにしている。入居者についての共通認識、対応について、申し送り時や職員会議、ケース検討会議等で協議、検討をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度等を活用している入居者はいないが、今後増えてくると思われるため、研修会や勉強会の機会をもう少し活用し職員一人ひとりが理解を深めていけるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面を使用し、不安なく入居できるよう十分な時間をとって説明している。また、不明な点については繰り返し納得して頂けるまで説明し、丁寧な対応を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月のお便りにて入居者のご様子をご家族へお伝えし、意見や要望を聞き施設の運営に反映させている。また、玄関に「意見箱」を設置し意見の出しやすい施設づくりを行っている。	感染防止のため、面会は家族の了解を得て時間予約で玄関先にソファを置き短時間で行っている。自由に会えない不安や心配事なども聞かれ、毎月の広報誌「どんがだより」には担当職員からのコメントと利用者の写真を同封し安心してもらっている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や日々の業務の中で職員からの意見や提案を聞き施設運営に反映させている。管理者は月1回の法人のブロック会議に出席し、意見や提案をブロック長を通じて代表者へ届くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況や体調面、意向の確認などを定期的に行っている。介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得のためのサポートを積極的に行っている。毎年の昇給等で職員の向上心維持に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間計画があり月1回テーマに添った研修を行っている。今年度は外部研修には参加できていないが、WEBセミナー等の情報提供を行い研修を受ける機会を確保できるようにしている。	現在は外部研修に参加できる状況になく、法人内研修や年間計画に沿って行う毎月の内部研修に力を入れ、動画を利用して救急救命の訓練を行うなど工夫してケアの質の向上を図っている。職員の資格取得には研修情報の提供やシフト調整で支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町の介護保険サービス調整会議、グループホーム連絡協議会に加入し交流の機会を持てるような体制を整えているが、今年度は交換実習などは中止となっている。当法人内でも各委員会や研修の開催により職員同士のネットワーク強化につながっている。	山形県グループホーム連絡協議会や町の会議・研修会のほとんどが行われておらず、書類による連絡のみで同業者と顔を合わせる機会が無くなっている。法人内委員会や会議などで情報収集しながら従来のネットワーク再開を待っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を基に、ご本人からの話を十分に傾聴し、安心且つスムーズなサービス利用が行えるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の不安や要望などを傾聴し、語り合う機会を設け、ご家族と職員の良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントを十分に行い、その時のニーズを見極め、適切な対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやテーブル拭き等の家事作業を職員と一緒にし、協力し支え合う者同士の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来た際には施設での生活状況や変化の有る事、問題点を報告し助言を頂くなど、入居者を共に支えていく関係作りに努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れたタンスや椅子等を持参して頂き使用してもらっている。また本人の好きな音楽なども聞いて頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で行うレクリエーションや軽体操を取り入れ、毎日の交流の機会としている。精神面で誤解を受けそうな方には随時職員が間に入り橋渡しを行う事で一人ひとりが孤立せず関わり合えるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気兼ねなく相談できる窓口となるよう努めている。長期入院などで契約終了した場合でもその後のサービス利用の再開や他のサービス利用についての情報提供などを行い相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から本人の思いや希望、意向を聞いたり、仕草や表情からくみ取ったり出来るように努め、気付いた点については職員で話し合い情報を共有し、本人の思いに添ったケアが出来るようにしている。	日々の関わりの中で聞き取った利用者の意向は業務日誌やケア記録で共有し、行事の折や活動の中で応えるようにしている。家族からは「穏やかな暮らしを続けてほしい」などの要望があり、家事や音楽鑑賞、歌などで皆が楽しめるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から直接話を聞いたり日常の会話からくみ取るなどし、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の暮らしを観察し記録に残し、申し送りなどを行い職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやケース会議にて現在の状況を話し合い必要に応じ介護計画の見直しを行っている。それを基に介護計画書を作成し、本人・家族にも説明のうえ同意して頂いている。	利用者や家族等の意向を大事にして、毎日の体操や計算問題などを日課に取り入れ日常生活動作の維持を図っている。検討会では全職員の意見を反映させ統一した対応で、できる事は自分でやってもらいながらさりげなく見守り、課題の解決に繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、個々に合わせたケアを行う為に、申し送りや会議等で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域の方交流の機会は限られているが、小学生ボランティアの作品を頂いたり、町の健康フェスティバルへの作品の展示などへ参加している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医についてはご家族と相談している。受診の際にはご家族の協力のもと行っている。また、ご本人の体調やご家族の希望により往診受診対応を行っている。	利用者の希望するかかりつけ医に家族同行で受診し、バイタル表・情報提供書を持参してもらい身体状態を知らせている。コロナ禍の折、薬だけもらってくる時期もあったが家族同行の受診は気分転換出来る良い機会となっている。看護師は日頃より健康面のチェックを行い、アドバイスをもらいながら体調変化や緊急時にすぐ対応できるようオンコール体制を取り本人・家族等の安心に繋げている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況を報告し、体調に変化があった時には報告し、都度報告し対応している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急の医療機関が近くにあるため、入院の必要な場合にはスムーズに対応が出来る。医師やご家族と連携、情報の共有を行いながら、安心して治療できるように対応している。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合の説明を行い同意を得ている。可能な限り当事業所での生活が出来よう、その都度ご家族や医師と十分に話し合いを行いながら対応している。	入居時に指針を示し、重度化した場合における対応を説明し同意を得ている。重度化の判断は食事が摂れない、排泄できないなど生活する上で支障が生じ始めた時期と捉え医師の意見・指示のもと本人・家族等と話し合いケア方針を決めている。職員はエンドオブライフケア研修に参加し終末期ケアに対応出来るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、定期的に心肺蘇生法やAEDの使い方について研修を行っている。今年度は内部研修のみとなっているが普段は消防署から講師を招き指導してもらっている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災通報訓練を実施している。災害時に備えて食料の備蓄の確認、ハザードマップの把握を行い災害時に備えている。地域の方々との連携はまだ十分とは言えないが、今回の避難訓練の際に電話連絡だけではあるが協力を依頼し協力体制作りを行っている。	年2回隣接事業所との合同避難訓練を行っている。実施後その日に研修会を開き、反省点や問題点を確認し災害時に備えている。通報連絡訓練では地域の協力を得ている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の支援を行う際に、その時その場に適した言葉かけを行い、一人ひとりの人格を尊重し支援、対応を行っている。	職員一人ひとりが年目標、月目標を立て自己評価で日々のケアを振り返っている。接遇研修を通して統一したケアの実施を図り、利用者のこれまでの生活歴や思いを共有して、利用者が満足して暮らせるよう取り組んでいる。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を伝える事が出来る人と伝えられない人がいるため、出来るだけ声掛けや関わりを多く持ち、希望が引き出しそれに添った支援ができるよう働きかけを行っている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に1日をどのように過ごしたいか傾聴し、その人に合った生活が送れるように支援を行っている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔・整髪支援を行い、本人に合った衣類を用意して頂いている。季節に合わせて衣替えを行い、気持ちよく過ごせるよう支援を行っている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月の行事食やバイキングなどを取り入れたり、誕生日の方の食べたい物を取り入れたり、食事の時間が楽しみとなるような工夫をしている。また、テーブル拭き等も手伝って頂いている。	ふだんの食事は配食サービスを利用し、利用者に合わせた食事形態でお粥や刻みなども提供している。誕生会や行事の時は利用者の好みの料理を用意し、毎月のバイキングでは好きなものを食べ楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせてお粥やご飯、刻み食の提供を行い、必要な栄養が摂れるように工夫している。また水分摂取については声掛けを行うとともに必要な水分量が摂取出来るよう飲み物を用意している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施している。自分で出来る方には声掛けと確認を行い、介助が必要な方には口腔内を清潔に保つ事が出来るよう介助を行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけを行い出来るだけトイレで排泄が出来るよう支援を行っている。	排泄チェック表により一人ひとりのパターンを把握し、毎日の生活リズムの中で排便・排尿がスムーズに出来るよう支援している。さりげない声掛けや誘導でトイレでの排泄を促し、失敗時にはプライバシーに配慮した対応をしている。夜間は目覚めや立ち上がりを知らせる眠りスキャンを活用している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医の処方踏まえながら、便秘にならないように毎日ラジオ体操とリハビリ体操を行い体を動かし、朝の牛乳や水分をしっかり摂れるよう支援を行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	清潔を保つためにも入浴を行い、入浴剤の使用などの工夫をしながら入浴介助を行っている。	湯温や入浴剤など利用者の希望を取り入れ、午前中、3日に1回を目安に入浴し、清潔な暮らしが出来るようにしている。1対1の介助でチェア浴などを取り入れ不安定な方でも安心して入浴できるようにしている。服を脱ぐのが嫌がる人も職員の巧みな言葉掛けで気持ちよく入ってもらっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝間着への更衣の声かけや、居室内の明るさや、温度に気をつけて支援を行っている。また、安楽な体位で休むことが出来るよう、必要に応じてクッションなども使用している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が薬の内容を理解し、重要な点については職員間で共有し、変化があった際には看護師や医療機関などへ報告し、状態にあった支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みやテーブル拭きをお願いし、役割を持って生活して頂けるよう工夫している。張り合いや喜びのある生活を送って頂けるよう、植木の手入れや気分転換のための体操などを取り入れている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナウイルス感染症の予防のため基本的に外出は必要最小限に控えている状況。今後感染状況をみながら、密にならないような状況で散歩やドライブ等から検討している。	新型コロナ感染症予防のため外出行事は自粛し、気分転換を図るため1日2回行うラジオ体操など事業所内活動を積極的に行っている。感染状況をみながら玄関前駐車場で日向ぼっこや紅葉狩りドライブなど外気に触れ季節を感じてもらえるよう三密を避けた取り組みを始めている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理が難しいため、ホームでお金をお預かりしている。必要なものがあれば職員が購入し対応している。感染症が落ち着けば、一緒に買い物に出かけるなどの支援も行っていきたい。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望があれば対応している。届いた手紙は本人に渡し、読めない方には読んで聞かせるなどの対応をしている。お正月には年賀状を書いていたなどしている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔に保てるように努めている。季節を感じて頂けるよう花々を飾ったり、行事や余暇活動などの写真や個々の作品を展示したりし、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	感染症対策として手洗いの励行、うがい、アルコール消毒を毎日実行し、共用部分の廊下やトイレ・フロアは常に清潔にしている。1日の大半をホールで過ごす人が多いため、季節の花や行事時の写真・創作品などを飾り、テーブルやソファの配置で一人ひとりの居場所づくりに努めてゆっくり寛げるようにしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性をみながら食席を決めており、適宜変更もしている。フロアにはソファや椅子を置いており、気の合う利用者と自由におしゃべりができるよう、職員が橋渡しをするなどの配慮も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものや家族の写真を飾り、居心地のよい居室づくりを行っている。また、身体状況に合わせてベッドの向きや高さなどを調整し過ごしやすい環境づくりを行っている。	壁面のボードに子供や孫の写真や手紙などを飾り家族を思いながら安心して過ごせるようにしている。利用者が使いやすいようベッドを配置し、床面は整理整頓して清潔を保ちつまづきなどないよう安全に配慮している。夜間は眠りスキャンを利用した見守りで安心に繋げている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のできることを活かし、できるだけ自立した生活が送れるよう、トイレなどの張り紙や居室前に名札や目印をつけ対応し、安全かつ迷わないように工夫している。		